

長期研修生作成 幼小接続の視点を踏まえた
生活科の年間指導計画案
教師の言葉掛けと環境の工夫の提案

◇長期研修制度について

現職の小学校教員が京都教育大学で1年間、幼児教育について学んでいる。大学での講義と附属幼稚園をはじめとする幼児教育施設での保育参観、在籍する小学校での1年生の参観を日常的に行う往還型の研修を実施している。

◇生活科でできる幼小連携年間指導・活動計画案の作成について

生活科を中心としたカリキュラムの作成について、具体的にどのようなことが可能かを考えた。在籍校のこれまでの幼小交流の状況や、令和6年度からの教科書の単元計画を、互惠性を考慮し作成している。この活動計画案を元に、地域の小学校と幼稚園が連携して、さらに具体的な活動を組み立てていくような活用の仕方を想定している。

◇「こんな時、言い方変えてみませんか。」の作成について

幼児教育施設を参観させていただく中で、先生方の言葉の選び方に感銘を受けた。指示的ではなく、子どもに寄り添い、子どもに聞いて引き出す、今、義務教育で求められている、主体的な学びを導く姿と感じ、自身の言葉を振り返るきっかけとなった。

言葉かけとともに大切な事は、少ない言葉掛けで済む環境である。教室や学校で子どもが学びの主体として、行動できる環境を整えておくことも同時に進めたい。

◇長期研修生1年間の学びの成果物として掲載

「幼小接続は大切と言われるけれど、具体的にどうすればよいか、何をすればよいかわからない。」という声がよく聞かれる。京都府幼児教育センターのホームページに掲載することで、京都府内をはじめ他府県の先生方にも、広く活用し御自身の授業の参考にいただけたら幸いである。